

あおばの  
**日常生活紹介**  
 宇野 千恵

Aさん(横地分類A2)は就学前の子どもです。数ヶ月前は絵本の語りを聴く様子や挿絵を見る様子はなく、ページを捲ることの方におもしろさを感じている様でした。最近絵本をじつと聞いている様子が増えてきました。Aさんに「さつまのおいも」という絵本を読みました。前半は短い語りとお芋がご飯を食べたり歯を磨いたりしている絵が続きます。1ページに一つずつのお芋が描かれていて、ページごとに絵が変わる様子をじつと見ていました。



お芋が並んで走っているページは「フアイト、フアイト」の短い言葉を聞いてにこやかに走り、走っているお芋の挿絵を端から一つ一つ順番に見るように視線が動いていました。挿絵の様子と語りのリズムを合わせて楽しんでいました。お芋の顔が大きく描かれているページは顔に注目し、子どもたちが「プッ、プー」とおならをする様子があちこちに描かれている挿絵に注目し、視線を動かしながら見ていました。擬音語、擬態語などの刻むような短い言葉のフレーズにもおもしろさを感じているようです。お芋と人が蔓を引き合う場面ではじつとかがうような表情です。次のページで「スッポーン」とお芋が抜けると、そのフレーズを聞き、表情が緩んだ後ぐつと挿し絵に見入る様子が見られました。次にページが捲られ挿し絵が変化することを期待している様子です。集中する時間も少しずつ長くなってきました。「さつまのおいも」は最初から最後まで注目して楽しめている絵本の中の一冊です。

ボール遊びを始めた頃は、狙って転がすことをしませんでした。今は職員とボールの転がしあいも楽しめるようになってきました。「転がしますよ」と声をかけ、Aさんのほうにボールを転がすと、だんだん近づいてくる動きに意識を高め、手と床でボールを挟むようにキャッチします。次に職員が「ちょうだい」と言って手を広げると、笑いながら職員のほうに向かって転がします。「すごいね」と声をかけるとさらに表情を緩ませ、時にはパチパチと拍手をするように手を叩いて喜びを表現しています。再び声をかけると次にボールが返ってくることを待つように職員の顔を見ています。ボールを転がしてピンを倒すことも行っています。直径20センチくらいのゴムボールとプラスチックのピンを使用して行います。



1メートルくらい離してピンを立てておくと、ピンを狙って転がします。ピンが倒れると職員の顔をチラッと見て、満面の笑みを浮かべます。ピンの位置を2〜3回同じ位置に立てて行った後に、少しピンを位置を変えてみると、自分でピンに対して体が正面になるように向きを変え、再び狙って転がしていました。自分が転がせる方向とより狙いやすい位置に体を動かしている様子がありました。繰り返しボールで遊ぶ事で、ボールのやりとりやピンが倒れるおもしろさに気が付いたのだと思います。絵本やボールの遊びで少しずつ成長していることを感じました。

ほくとの  
**日常生活紹介**  
 鈴木 久美子

Aさん(横地分類A4)は絵本を読むと上の方に視線を向けながら動きを止め語りに耳を傾けています。その中で擬音語や「もういいかい」「まあだだよ」のようにテンポのよいフレーズの掛け合いなどに表情を緩ませおもしろさを感じているようです。絵本の中では語りかけを聴くことの外に挿絵に視線をじつと向け

注目している様子もあります。このことから画面の変化する様子を感じられるような活動を行っています。



『まるまるまるのほん』は色鮮やかな丸の数が増え大きさとした変化がある本です。最初はページをめくる動きや丸をさすったりする指の動きを見ていますが、白から黒に背景色が変わるページで大きく目をあけて画面の色が白から黒、黒から白に変わる様子をじつと見ていました。背景色のはっきりとした変化や浮き出るような丸の変化を感じているようでした。『おつきさまこんばんは』は黒い背景から黄色く丸い月が段々と出てきたり見え隠れしたりする絵